

中國圖書新聞

- ◆新譜にときめく時代がやってきた
- ◆月収3万円のファシリタスたち
- ◆今日のオスス文庫

地区に店舗のある書店とて、文化面での住みやすさに貢献していきたいものです。㊦

新潮・角川・集英社の夏の文庫フェアは30年前から続き、すっかり書店の夏の風物詩になっていく。各社趣向を凝らした限定の装丁やノベルティがあり、飾り付けは担当者の技の見せどころだ。

今年のフェアの中からおすすめを一冊。林真理子『本を読む女』は、本が大好きな少女、万亀が、ままたながら現実と向き合いながら激動の時代を前向きに生き抜いた半生を描いている。万亀は著者の実母がモデルになっており、その生き様は確実に今の林真理子につながるルーツだと確信させる。著者の母親への愛情や敬意、そして書くことに対する覚悟

ハステラーから専書まで笑して、
 砥波店に是非来店下さい。

本文読む女の
人生は深い

新潮・角川・集英社の夏の文庫フェアは30年前から続き、すっかり書店の夏の風物詩になつてゐる。各社趣向を凝らした限定の装丁やノベルティがあり、飾り付けは担当者の技の見せどころだ。

今年のフエアの中から
おすすすめを一冊。林真理子
『本を読む女』は、本が大
好きな少女、万亀が、ま
まらない現実と向き合い
ながら激動の時代を前向
きに生き抜いた半生を描
いている。万亀は著者の実

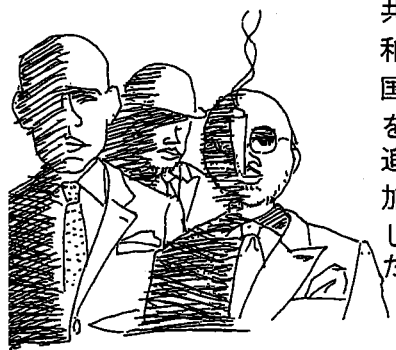
母がモデルになつており、その生き様は確實に今の林真理子につながるルー・ツだと確信させる。著者の母親への愛情や敬意、そして書くことに対する覚悟を感じる力作で、本を読む喜びや切なさがぎゅつと

魚津店ではレトロでか
 わい装丁をもとに作っ
 たPOPと共に展開中な
 ので、是非手にとって
 いただきたい。

㊦

※価格は本体価格です。

月収3万円のファッションistasたち



アフリカのコンゴ共和国に世界から注目を集めているおしゃれ集団がいるのをご存知だろうか。彼らは「SAPOURS(サプール)」と呼ばれる紳士同盟で、その歴史はフランスの植民地時代にまで遡る。フランス流のエレガントな着こなしに憧れ真似をはじめたコンゴ人が、ついにはポール・スミスも自身のブランドの参考にしてしまうほどの独自のスタイルを打ち出した。

彼らの写真集を見ると色づかいの斬新さや立ち居振る舞いに目を奪われる。貧困が目に見えて分かる町並みに、ハイブランドのスーツを纏い葉巻をくゆらす男たち。なんともいえないアンバランスな感じがたまらなくカッコいい！

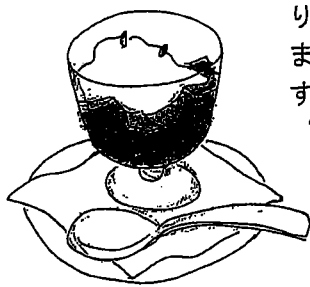
見た目だけではなく、サプールには生き方も重要だ。「暴力を振るわない」「差別をしない」といった掟に従い、常に住民の尊敬に値する人物であることを求められる。

貧しい国で、そんなことは微塵も感じさせず誇らしげに堂々とポーズを決める彼らを見て、「ジェントルマンの文化はヨーロッパにしかない。」と考えていた私は深く反省し、紳士の国にコンゴ共和国を追加した。

あまののち

昔からフルーツゼリーより、コーヒゼリーが好まれた。濃い琥珀色のツルリとした表面にクリームを流し込み、スプーンでや大きめにすくう。クリームがこぼれないよう注ぎ深く口に運んでクラッシュすると、はじめにミルクの甘さが、その後で珈琲のほろ苦さが口いっぱい広がるのだ。

久しぶりにその感覚を思い出したのは、この「コーヒゼリーの時間」を手にとったから。関東・関西の厳選されたカフェや洋菓子店のこだわりのコーヒゼリーを紹介している。ふるふるなのやあえてブラックなもの、フルーツを一粒のせたものやパフェ仕立てなどオナーさんたちのこだわりや裏話も読物として面白い。夏の京都旅行ではいつもかき氷を楽しむにしているけれど、次回は高木珈琲でコーヒゼリーパフェを注文してみようかな。でもそれまで待ちきれないの、今日はコンビニに寄って帰ります。



迷いながらも進む

最近、選択を迫られる機会が増えてきた。仕事・結婚・家族...いつでも最良の選択をしたい。これまでその都度決断をしてきたはずだ。だが今、迷い前に進めなくなっている自分を感ずる。

西炯子を読むには、しんどい時だったのかもしれない。今回の新刊は特に心に刺さる。結婚観がこじれた女性美由紀が婚活する話だが、考え方や迷いに共鳴してしまった。

読書カフェのノートに想いを綴り、見知らぬ男性高橋

今日のオスミ文庫

女の園、後宮...イメージされるのは華やかではあるが、女のドロドロした愛憎劇ではないでしょうか。ただしこの作品は一風変わった後宮のお話。

主人公は33歳で後宮に入られてしまうのですが、理由はそれですか!?と思わず口に出してしまうほどの一味違った理由があるわけです。女將軍という肩書きでも分かるように、主人公は男勝り。性格もかなりサバサバ系。後宮の定番、暗殺・面策などもでてきますが、対処の仕方が男前!!後宮ならではのドロドロさを見事に引き消してしまします。また皇帝と主人公の掛け合いも必見!皇帝側にエールを送りたくなる方が多いと思います。

ドロドロ苦手という方に安心して読んで読んでもらえる珍しい後宮物語です!

【書肆情報】『SAPOURS(サプール)』(タニエー・タマニ・青幻舎 二二〇〇円)『コーヒゼリーの時間』(木村衣有子・産業編集センター 一四〇〇円)『カッパレの日』(西炯子・小学館 四二九円)『紅霞後宮物語』(雪村花葉・KADOKAWA 五八〇円)『家族のお金が増えるのは、どっち!?』(菅井敏之・アスコム 一三〇〇円)

お金のほなし

先日「く」の情報番組で、親の財産がどれくらいあるか把握しているか?という話をやっていました。インタビュに答えていたほとんどの人が知らないとの答え。私もそういえない。聞いたこと無い、というか聞かない。「お金の話をするのはなんかいやらしい」と思ってしまうから。

だが親の財産を知り、自分の財産を知り、お金のことを考えることは、親や自分、ひいては家族のことをちゃんと考えることなのだと思ふと読んで思わされた。

また本書では、なかなか聞きづらい親の財産の聞き出し方もアドバイスしてくれています。40万部突破の前著「お金が貯まるのは、どっち!?」もおすすすめ。

しかし、日本の金融資産の3分の2を60代以上の方達が持っているとは知らなかった...

ベストアルバムを買って

今夏はベストアルバムを発売したアーティストが何組かあった。ベスト盤、となると気になるのは、どんな曲が入っているかということだ。

よく見られるのは過去の名作シングルをまとめたもの。今年活動三十周年を迎えたTUBEの「BEST of TUBE」や、DREAMS COME TRUEの「私のドリームカム」もこの例だ。一方で、シングル曲を一つも入れなかったバンドもある。気鋭のロックバンドUNISON SQUARE GARDENの「DUGOUT ACCIDENT」は、ライブで馴染みの曲が一枚。何かのテーマに沿って曲を選ぶ方法もある。俵田 夾未さんの「SUMMER of LOVE」は「夏」というテーマで過去の曲をまとめている。

懐かしい曲を聞いて青春時代を思い返すもよし、最近ファンになった方は入門として買ってみるもよし。ベスト盤は曲数がたつぷり入っていることが多いので、行楽のお供にもぴったりだ(TUBEやドリカムのベストは何と五十曲入り)。ぜひ店頭にて、お気に入りの一枚を探してみ下さい。